

群馬県立桐生工業高等学校 (全日制) 学校評価一覧表 (令和7年度版)

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策	点検・評価 達成度			達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	1 生徒の85%以上が、各教科の特色を活かした教育活動に満足している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別授業や少人数指導、授業改善を効果的に実施する。</li> <li>学校外の機関（企業や大学等）と連携し、特色ある教育活動を行う。</li> <li>地域貢献、地域交流を積極的に推進する。</li> <li>全生徒が、在学中にインターンシップに参加する。</li> <li>生徒会、委員会、部活動等を活性化させ、生徒の自主的な活動を支援する。</li> </ul>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のアンケート結果から95.2%の生徒が少人数指導や学校外の機関と連携した授業に満足していると回答している。引き続き、各教科の特色を活かした教育活動を行っていき、生徒が満足する教科活動を模索していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>桐生工業高校は地域社会からの期待が大きい。</li> <li>染織デザインコースでは、桐生織物協同組合の和装新製品開発事業のコンテストに多数応募があり、優秀賞に輝いている。今後も特色ある教育を継続し、地元で活躍する人材を育成して欲しい。</li> </ul>
		2 生徒の80%以上が、自分の学校が好きだと感じている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に目標を持たせ、放課後などを利用し、資格取得、各種コンテストに向けた指導を実施する。</li> <li>ジュニアマイスター顕彰へのチャレンジを推奨する。</li> </ul>	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のアンケート結果から82.2%の生徒が「自分の学校が好きだ」と回答しており、引き続き「好きだ」と感じられるような教育活動を実践していきたい。</li> </ul>	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	3 複数の資格取得、各種コンテスト等にチャレンジした生徒が60%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>普通教科はもちろん、実習科目においても活用できるフォームやマイクロソフト365など具体的な使用方法を教師側に情報提供をする。</li> </ul>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の資格、各種コンテスト等に挑戦した生徒が83.5%いた。今年度も具体的な数値目標を達成することができた。現状より向上させるには、資格取得のための設備の充実、今以上の指導者および生徒の学習時間の確保（部活動との両立）等の改善が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>染織デザインコースの授業や、建設科のドローンの授業は、ものづくりに興味のある生徒にとってたいへん貴重な経験ができる。</li> <li>大学や企業と連携した授業をさらに増やし、地域にアピールしてもらいたい。</li> <li>建築甲子園全国優勝連覇、ものづくりコンテスト旋盤部門関東大会出場、高校生ロボット競技全国大会出場など、優秀な成績を収めた。</li> <li>課題研究の取組は、大学生にも引けを取らない素晴らしいものであった。</li> </ul>
		4 貸与chromebookやBYOD1人1台端末等を活用した学習指導に満足していると感じている生徒が70%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員を対象とした学校評価アンケートを実施して、授業改善に取り組む。</li> <li>職員相互の授業参観等を行い、授業改善に取り組む。（学びのイノベーション）</li> <li>生徒を対象とした授業アンケートを実施し、授業改善を充実させる。</li> </ul>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートで88.5%、保護者アンケートで88.0%が「BYOD（1人1台端末）を活用した学習指導に満足している」と回答し、満足度は高い。職員のBYODの積極的な活用をさらに促し、効果的な学習活動に結びつけていくことが課題である。</li> <li>職員アンケートの結果からは93.3%の実現となっている。また、生徒のアンケート結果からも授業に満足している回答が多く、今後も生徒が主体的に学習に取り組める教科指導を実践していきたい。</li> </ul>	
		5 職員の80%以上が、全ての生徒が主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、授業の中で計画的・継続的に実施し、生徒が目標を達成できるよう授業の工夫を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員を対象とした学校評価アンケートを実施して、授業改善に取り組む。</li> <li>職員相互の授業参観等を行い、授業改善に取り組む。（学びのイノベーション）</li> <li>生徒を対象とした授業アンケートを実施し、授業改善を充実させる。</li> </ul>	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートでは生徒の94.5%・保護者の87.7%・職員の93.4%がそう感じている。生徒は学習の中で主体的に取り組み、自己の成長を感じているようだ。保護者・職員は、もっと高められるという期待があるので、生徒の実感とは差があるだろうと推測する。次年度も今年度以上の成果が出るよう取り組みたい。</li> </ul>	
	3 基礎的な技術の習得を充実させていますか。	6 実験・実習において、指導された技術が身についたと感じている生徒が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート、作品等の学習による成果物を評価し、不十分な内容については再指導を行うなど、修得の向上に努める。</li> </ul>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のアンケート結果から89.2%の生徒が、進路目標に向けて、求められている学力を身に付けられていると回答している。引き続き、進路実現に向けた資格取得指導も含めた確かな学力を身に付けさせたい。</li> </ul>	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	8 学校生活に困難を抱える生徒を早期に発見し、適切な指導を行うことで不適応な状況に陥る生徒を出さないよう努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が進路実現を達成するために必要とされる学習内容を明確にし支援することによって、学習意欲の向上を図る。</li> <li>生徒の可能性を引き出すために、ICT等を使用した個別最適な学びと協働的な学びを充実させる。</li> </ul>	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が共通認識や連絡・報告・相談は93%と体制がとれており、情報交換やチーム対応も良好である。保護者への積極的なコミュニケーションも全職員（100%）が心掛けており良好である。生徒から職員やSCへの相談のしやすさは約69%と昨年より下がっている。様々なアンケートをオンライン化し、迅速な対応がなされている。今後の課題としては教育相談を中心に相談窓口を広げるためのアナウンス等を展開していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校周辺地域で、生徒が登下校や部活動中に気持ちよく挨拶してくれる。生活面での指導にも先生方が力を入れてくれている。</li> <li>先生方が生徒一人一人を指導しているというより、個々に応じたサポートをしていただけていると感じる。</li> <li>ものづくりを通して生徒が得られる達成感が、次の意欲へつながっている。地域に根差したキャリア教育であると考えている。</li> <li>部活動に取り組んでいる生徒が多い。活動が充実している様子が見えかける。</li> <li>不登校や外国にルーツを持つ生徒が多くなってきているが、学校で様々な対応が行われていることが分かった。生徒の安心した学びへの対応を充実していただきたい。</li> </ul>
		9 学校生活において、あいさつの励行、マナーの遵守ができていない生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議・運営委員会において問題を抱える生徒に関する情報交換をする。</li> <li>スクールカウンセラーの活用やアンケート調査にて、状況を正確に把握する。</li> <li>定例会議（生徒指導、教育相談、学年会、学科会議）を通して分掌内、分掌間の共通理解を図るとともに、問題発生時の早期対応に努める。</li> <li>当番制による毎朝のあいさつ運動を行うとともに、遅刻防止を呼びかけ、生徒の意識向上を図る。</li> <li>生活改善週間を設定し、生徒登校時及び始業前の指導を全職員で行う。</li> <li>各クラスの担任・副担・学年付補助職員を設定し、組織での指導体制を定着化させる。</li> <li>地震や火災対応の避難訓練だけでなく、土砂災害や浸水等気象災害も考える機会をつくる。</li> <li>安全点検による危険、破損箇所を修繕していく。</li> </ul>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員による生徒の生活習慣改善への取組は全職員（100%）が協力し、積極的に声かけを行っている。生徒の挨拶励行も98%で、保護者も91%が生徒のあいさつの習慣が身についていると感じている。今年度は校内数力所および生徒玄関でのあいさつ指導を行ったり、風紀委員の生徒による挨拶運動も行ったことで成果が出ている。今後も継続していきたい。</li> <li>各災害の危険性をクラス案内し、90.7%生徒の関心と理解を得られた。また、避難訓練での火元や実施時間を変えたり、いろいろな避難経路の理解を深めることができた。</li> <li>校舎の老朽化に伴い、今後危険箇所、破損箇所の増加が見込まれるので安全点検で早期発見に努めたい。</li> </ul>	
		10 防災避難訓練を年1回実施し、目的を理解し、安全管理や危機管理を考え、その重要性を感じている生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教室、マナーアップ運動を通して安全教育を徹底する。</li> <li>交通マナーに関する問題提起を生徒にも呼びかけ、生徒自身が事故防止を考える機会を増やす。交通委員作成のハザードマップをもとに危険箇所を把握させる。</li> <li>自転車整備点検を保護者にも依頼し家庭での交通安全意識を啓発する。</li> </ul>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全ルール、マナーを遵守している生徒は95%で、保護者の87%が学校の交通安全指導を理解している。生徒、保護者ともに意識が高まっている。また、毎月15日に学年ごとに交通委員がマナーアップ運動を行っていることもあり、交通事故件数も昨年の19件から8件減少している。今後も継続していきたい。</li> </ul>	
		11 交通安全を心掛けている生徒が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>桐工いじめ防止対策基本方針及び別表について職員、生徒、保護者について周知徹底し、未然防止に努める。</li> <li>職員間で生徒情報を共有し、職員がいじめの兆候を見逃さないようにする。いじめを把握した際には、組織的な対応を図る。</li> <li>月に1度の職員研修を実施し、いじめの正確な認知と組織的な対応について法律に基づいた知識を身につける。</li> </ul>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ認知件数は8件である。生徒からの相談にも迅速に対応でき、いじめ防止への取り組みを職員は100%が積極的に評価している。しかし、いじめは職員のわからないところで起こるものと認識し、気を抜くことなく、引き続き啓発活動や職員への研修を続けていきたい。また、桐工いじめ防止対策基本方針についても、来年度新着任の職員を含め周知徹底を図ってきたい。</li> </ul>	
	6 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	12 いじめの発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒主体の行事運営ができるようにする。</li> <li>球技大会、大運動会を早期計画・準備により成功させる。</li> <li>生徒アンケート等を実施しより充実した活動とする。</li> </ul>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会行事に満足した生徒が83%であり一定の成果は残すことができた。次年度は文化祭の実施年度であるので早期に計画を立て、他行事の加太についても改善していきたい。</li> </ul>	
		13 生徒主体の生徒会行事が活発に行われ、生徒の80%以上が満足している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新入生の入部と、2・3年生の新たな入部を促す。</li> <li>部活紹介の配布資料及び発表内容を充実させる。</li> <li>活動内容や試合結果・成果等の広報活動をより発展させる。</li> </ul>	C	C	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の入部率が60%と前年と変化がなかった。目標数値には届いておらず新入生歓迎会や各部の広報活動をより充実させ部活動の意義や魅力を発信していきたい。</li> </ul>	
	7 積極的な生徒会活動が行われていますか。	14 部活動、愛好会等で活動している生徒が70%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻、欠席、早退者への家庭連絡を徹底し、保護者の理解と協力を得る。</li> <li>遅刻の多い生徒との面談を実施し、本人の意識を改善するよう努める。</li> <li>不登校傾向の生徒に対しては、教育相談係、スクールカウンセラーと担任等が協力して相談にのる。</li> <li>体育の授業や部活動、行事を通して生徒自らが体力向上、健康増進を図るよう促す。</li> <li>生徒会や生徒保健委員会、学校医等と連携し生徒の健康意識を高める工夫をする。</li> <li>健康観察を定期的に発信し、感染症予防の意識を高める。</li> <li>色彩や配列を工夫し、見やすくわかりやすい内容を心掛ける事により、生徒の健康意識を高める。</li> <li>生徒保健委員が保健だよりの作成を行う。</li> <li>保健だよりの教室掲示を行う。</li> </ul>	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>一日の遅刻者・早退者・欠席者数の各割合は、遅刻3.7%、早退0.6%、欠席3.7%であった。92%の生徒が遅刻・早退・欠席防止に積極的であり、職員や保護者ともに意識を高く持っているため、今後は遅刻の割合をさらに減らせるよう努めていきたい。</li> </ul>	
		15 一日の遅刻者・早退者・欠席者数が、全体の3%以下である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種活動、行事等で精力的に感染予防への広報活動を展開し、意識を高めた。今年度も、生徒対象の心肺蘇生法講習会を保健委員を中心に30名程度で実施した。また保健だよりに保健委員生徒が参加し、生徒の健康意識向上に努めた。</li> </ul>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒、職員、保護者共に80%以上が保健だよりに関して、健康的な生活に役立っている」と回答。生徒保健委員による保健だよりの作成は今後も続けていきたい。</li> </ul>	
		16 体力向上、健康増進に取り組んでいる生徒が70%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒、職員、保護者共に80%以上が保健だよりに関して、健康的な生活に役立っている」と回答。生徒保健委員による保健だよりの作成は今後も続けていきたい。</li> </ul>	A	A	A		
	8 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	17 保健だよりに関して、健康的な生活に役立っている生徒が70%以上である。	15 一日の遅刻者・早退者・欠席者数が、全体の3%以下である。		A	A	A	
16 体力向上、健康増進に取り組んでいる生徒が70%以上である。				A	A	A		

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしているか。	9 計画的な指導を行っていますか。	18 進路講話や進路ガイダンスが進路選択に役立つと思う生徒や保護者、職員が90%以上である。	・進路講話は、学年進行に従いながら生徒の発達段階に即した内容を提供できるよう心掛ける。各学年・業者と内容を検討し、生徒自らが考え、行動し、進路決定ができるような指導を模索する。	B	B	B	・あてはまる、だいたいあてはまるがそれぞれ約90%であった。生徒が自ら調べてみたいという気持ちを持たせることが重要であると感じた。企業や上級学校に対する理解を広げるとともに、入学後の早い段階から進路先の研究を進めようとする意識が高まるよう、学年団、関係機関との連携を強化する。	・インターンシップや地元企業と連携した取り組みは、生徒にとって大変貴重な経験となる。今後も継続してもらいたい。
	10 適切な勤労観・職業観を育てていますか。	19 インターンシップを実施する科が100%である。 20 インターンシップに参加した生徒のうち学びがあったと感じる生徒が、90%以上である。	・積極的に企業と連携しインターンシップ受入先を確保する。 ・生徒とインターンシップの受け入れ先のマッチングに配慮する。 ・事前、事後指導をしっかりと行い、インターンシップの目的や意義を確実に理解させる。 ・実施できなかった生徒に対しては代替指導し、その成果について検証する。	A	A	A	・全科の2年生でインターンシップを実施できた。来年も実施したい。 ・アンケートでは63.3%の生徒がそう感じている。学ぶことがなかったという生徒も19.7%もあり、協力企業等の制限や、学科の専門性に興味を持たない生徒もいるのでこの数値となっている。次年度は学びが得られるように、環境整備を進めたい。	・企業と連携し、本物に触れることでより良いものを作りだすというものづくりの精神が育まれ、ここで得られた達成感が生徒のキャリア教育につながっている。地域に根差した教育であると感じた。
	11 適切な進路情報を提供していますか。	21 進路指導部が発信する最新の進路情報を90%以上の生徒・保護者が満足している。	・ClassroomやHandy進路指導室などを通して、進路情報の発信を随時行っていく。進路関係雑誌や案内等を適宜各HRに配布する。	B	B	B	・生徒の評価は約90%だったが、保護者の評価は約70%と低かった。Handy進路指導室の導入により、求人検索やガイドブック閲覧等の環境が整ったが、保護者への周知が完全ではなかったかと考えられる。必要な時期に十分な情報が発信できる態勢を整え、生徒・保護者への案内を周知徹底する。	・群馬大学でもドローンを活用した取組を行っているので、ぜひ連携をしていければと思う。工業高校から本大学への進学もあるのでぜひ検討してもらいたい。
	12 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	22 具体的な進路希望先が挙げられ、進路実現までの手順と準備について十分理解し、実現に向けて最善を尽くしていると感じている生徒や保護者、職員が90%以上である。	・進路スケジュールを生徒がきちんと把握し、いつまでに何をすべきかなど、その都度自己点検できるよう、HRや行事等において様々な働きかけを行う。結果として早い時期から進路実現に向けた取組を始めようとする意識が高まるような指導を模索する。	B	B	B	・生徒の評価は約90%だったが、保護者の評価は約70%と低かった。Handy進路指導室の導入により、求人検索やガイドブック閲覧等の環境が整ったが、保護者への周知が完全ではなかったかと考えられる。必要な時期に十分な情報が発信できる態勢を整え、生徒・保護者への案内を周知徹底する。 ・早い時期からオープンキャンパスに参加するなど、行動する生徒は限られており、全体としては十分な進路活動が行えているとは言えない。今後も各学年に応じた内容で進路ガイダンスや講話等を設定し、進路意識を高めるきっかけの一つとなればと期待している。進路関係書類の提出においては、特に誓約事項に関する説明を丁寧に行う。	・群馬大学でもドローンを活用した取組を行っているので、ぜひ連携をしていければと思う。工業高校から本大学への進学もあるのでぜひ検討してもらいたい。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	13 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	23 本校の教育活動について、保護者や家庭の方々の70%以上が関心を持っている。	・学校の教育活動や成果等の情報発信を強化し、ホームページの充実を図る。 ・学校行事の様子などを迅速にアップロードする。 ・中学生をより強く意識したコンテンツのアップロードを行う。 ・保護者アンケートの結果を授業改善に生かすとともに、授業公開の実施時期や方法についても検討を加える。	A	A	A	・ホームページによって学校の様子が分かりやすく感じる割合が、生徒84.0%、保護者80.4%であった。引き続き、学校行事等の様子をタイムリーにアップしていく。	・様々な形で、保護者や地域に対する広報活動を行っている。今後も継続して取り組んでもらいたい。
		24 授業公開（2学期実施予定）に満足できるが60%以上である。	・保護者アンケートの結果を授業改善に生かすとともに、授業公開の実施時期や方法についても検討を加える。	A	A	A	・88.9%が満足しており目標値に到達した。次年度に引き継ぎたい。	
		25 PTA役員会やPTA総会及びマナーアップ運動などの行事や企画等に参加する保護者の割合が、50%以上である。	保護者に必要な情報発信を適切に行い、行事への参加者を増やす取り組みを行う。保護者が気がねなく、楽しく参加できる学校（PTA）行事をしっかりと計画する。	A	A	A	・PTA役員会、総会、マナーアップ運動等の従来ある行事に加え、3年生の模擬面接練習、施設見学会等の新たな取り組みも実施でき、達成率は80%以上と言える。	
		26 学習活動や学校行事等に、主体的に取り組むことができた生徒が70%以上である。	・専門学科講師授業やインターンシップを実施及び地域と連携した学習活動を充実させる。また、学校行事・生徒会行事を活性化させることで、主体的に考え、判断し、行動できる人材の育成をはかる。	A	A	A	・今年度も2学年全学科でインターンシップを実施することができた。専門学科講師授業や地域企業と連携した取組も生徒の期待は大きい。生徒会行事は、さらに生徒が主体的に取り組む、成長できる場が増えるよう検討していきたい。	
Ⅵ 教育のデジタル化に努めていますか。	14 ICTを活用した指導を行っていますか。	27 貸与chromebookや個人PCによるBYODで1人1台端末を活用している生徒が80%以上である。	・貸与chromebookや個人PCで1人1台端末を活用し、調べ学習や学習課題および提出。さらには授業で活用する。	A	A	A	・教科ごとに使用方法は異なりますが、80%以上のPC使用	・今後も積極的に活用してもらいたい。
	15 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	28 貸与chromebookや個人PCによるBYODで1人1台端末を使いアンケートや授業の課題提出等に活用している生徒が70%以上である。	・貸与chromebookや個人PCをアンケートなどの回収や課題提出で活用し、集計の省力化や用紙の節約を図る。	A	A	A	・アンケートや課題提出に分掌や教科で活用を行っている。	